

## 平成 25 年度 私立短期大学図書館情報担当者研修会

### A 分科会報告

会 場：アルカディア市ヶ谷・7 階 白根  
担当委員：村山・湊・網本委員

A 分科会は、4 年制大学の設置がなく単独で運営している短大 14 校が、関心のあるテーマ、抱え得ている課題や他の図書館に尋ねたいことなどを発表し、その中から共通したテーマについて各館の事例を紹介し合った。

#### ●学生サポーターについて

多くの図書館が、学生サポーターや図書委員、図書クラブなどによる選書、ポップ、各種コンテスト、展示、読み聞かせ、DVD 作成などを行っている。学生サポーターには、委員として招集するケースと、学生の任意による場合があり、任意の場合は人数にバラ付きがある。また、サポーター以外に全学生を対象にしたノベルティ（図書券、コピー用ポイントなど）付きのコンクールや広報活動なども実施している。学生と図書館との協働は盛んに行われている様子に対し、教員や他課との連携や協働について話が進まなかったのが残念である。

#### ●寄贈図書の扱いについて

寄贈図書について、受入の基準、受入価格等について情報交換を行った。受贈の際には、図書館側の裁量ですべての図書を受け入れるものではないことを明記しておくのがよい、という結論だった。

#### ●選書について

選書が難航している複数の図書館から、どのような働きかけをしているかという質問があった。教員や学科ごとに金額を割り当てている、シラバス掲載の指定図書を事前に提出してもらい、卒論のテーマに添った選書を行う（ただし、システムチックにはなっていない）などのほか、書店から週に 2 回ほど学科関連図書を見計らって現物を手にとって選書している、という紹介もあった。

#### ●地域開放について

社会人や卒業生、保護者への開放について各館の事情を紹介し合った。多くの館がセキュリティに不安を抱えており、入館拒否が難しいことで積極的な開放には課題が多いことが指摘された。新潟県、埼玉県では、学生と教員は大学間で相互利用できる制度があることも紹介された。

#### ●電子図書の扱いについて

A 分科会で電子図書の受入を行っている館はなかった。今後、図書館としてどのように対応していけばよいのかについて、どの図書館でも大きな関心を寄せていた。

以上